

平成 29 年 7 月 5 日

北海道サッカー協会 審判委員会 各位

北海道レフェリーアカデミー第 5 回 議事録

報告者：宗像 瞭（十勝）

<日 時> 平成 29 年 7 月 1 日（土）、7 月 2 日（日）

<場 所> 札幌サッカーアミューズメントパーク、札幌市北区民センター、札幌サンプラザホテル

<参加者>

JFA アカデミーマスター : 太田 潔 氏

北海道アカデミーマスター : 山崎 裕彦 氏

インストラクター : 伊藤 真也 氏、古曾部 統太郎 氏

審判員 : 堀 悠雅、宗像 瞭、板矢 智志、須摩 和樹

オブザーバー : 松坂 樹 氏（北海道強化指定審判員）

高瀬 時代 氏（札幌地区ユース審判員）

岡 聖人 氏（札幌地区ユース審判員）

7 月 1 日（土）

9:30 集合：札幌サッカーアミューズメントパーク

9:45 ビデオクリップ 古曾部 INS

アドバンテージの適用について、いくつかの映像を用いてディスカッションを交えながら行った。コンシダレーションポイントや、アドバンテージ適用のシグナルのタイミング、警告が伴うアドバンテージ後の処理について、整理及び共有をした。また、アドバンテージを適用したが、オフサイドの反則があった場合や、決定的な得点の阻止の機会となり得る場合でのアドバンテージの適用について遭遇することは少ないが、起こってしまったときに適切に対応できるよう、事前に対応の方法を整理する必要があると感じた。



11:00 昼食

12:15 第 36 回北海道学生サッカーリーグ 2 部 第 4 節

北星学園大学サッカー部-北海道文教大学サッカー部

(R: 須摩和樹 A1: 宗像 瞭 A2: 岡 聖人 4th: 学生)

14:30 第 36 回北海道学生サッカーリーグ 2 部 第 4 節

北海学園大学体育会サッカー部-小樽商科大学サッカー部

(R: 堀 悠雅 A1: 板矢 智志 A2: 高瀬 時代 4th: 学生)

16:30 移動・軽食（札幌市北区民センターへ）

18:00 競技規則の改正・FST 山崎 北海道アカデミーマスター

2017/2018 年競技規則の改正について説明を受けた。北海道内では 8 月から適用するが、全国大会では 7 月中から適用することもあるので、頭に入れておくこと。大きな改正点としては、昨年の競技規則の大改訂に盛り込まれていた、PA 内の反則に対する 3 重罰解消の考えに伴い、今回は PA 内で大きな得点のチャンスとなる攻撃を、ボールにプレーしようとした結果、反則となり止めた場合について、従前は警告であったが、改正後は懲戒罰なしの PK のみで対応することとなった点である。他にも、従前は、各国サッカー協会主催下で行われる公式協議会の試合では、いかなる試合でも最大 3 人までの交代までしか認められなかったが、改正後はトップレベルを除き、最大 5 人までとすることとなった。競技会規定により定められることとなるので、必ず確認しておく。

2017 フェアでスピーディーでタフなプレーの JFA の映像を確認し、ディスカッションし、コンシダレーションポイントを基に、判定の導き方を共有した。



19:00 サッカー審判員の表現力UP 外部講師：UHB 遠藤 雅 氏

広い舞台の会場で最後列の人にも声と感情を届ける能力を持つ俳優さんに講義を行っていただき、発声方法や演技の指導が主であった。発声方法は、腹式呼吸を用い、肺により多くの空気を吸い込ませ、欠伸を出すような喉から声が出る感覚が良いとされている。練習することで、腹筋も喉も鍛えることができるため、継続することが重要。演技の指導は、台本に基づいたセリフを各自渡され、感情を入れて、自分の思いを伝える方法を学んだ。



21:00 1日目日程終了

2日目

9:00 集合 (札幌サンプラザ)

9:00 試合分析

(北海学園大学体育会サッカー部-小樽商科大学サッカー部)

R 自己分析→試合を通して判定基準にブレが生じてしまった。

また、的確なアドバンテージを適用できるよう努めたが、的確なアドバンテージは1度ほどしかなく課題であった。ポジショニングに関しては、戦術に応じた動き出しや動きを意識し概ね争点から離れることなく対応することができた。マネジメントが課題であったが選手とコミュニケーションを図ったもののマンマネジメントはすることがなかったと感じてしまった。



INS 分析→ポジショニングに関しては、自己分析通り争点には近づくことができていた。ただ、北海学園大学が右サイドでの攻撃が多い中でクロス回数が少ないことを考えると、数メートル争点にアプローチしても良かったのではないかと考えた。アドバンテージに関しては、前半の課題を修正し後半に的確に適用できていた。マネジメントはしっかりと行うべきであった。強い姿勢を見せないことで競技者がレフェリーに対してなんでもいいやすくなってしまう。(両チームとも)従ってタイミングを逃すと自分が苦しくなってくる。今後は審判員として時には強い姿勢でマネジメントを行うことが必要となってくる。また、副審との協力関係も良くない。副審をリードするということがどういうことなのかもう一度考え直す必要がある。

10:15 振り返り

10:30 主審と副審の協力 伊藤 INS

主審と副審の間では、試合中に「伝える」ということを行う場面はたくさんある。ジェスチャーゲームにより伝える難しさを実感し、試合中にはどのように伝える手段があるかを確認した。まずは「伝えるべきこと」を把握し、「伝える」→「伝え方」が大事となる。どのようにして伝えるかの「伝え方」をより工夫して、いろんな方法にチャレンジしてみる



11:45 昼食



12:30 審判員プレゼン「見極め」 審判員



堀→日常生活で見極めをする場面には、「人」「企業」「運転」などの要素があり、人生の中でも「見極め」ということは多くある。審判員に「見極め」の要素を落とし込むと「判定」・「オフサイド」・「タッチジャッジ」などあるが、正しく見極めるためには「ポジション・動き」、「競技規則の理解」、「weit&see」、「平常心」が必要となる。

宗像→「見極め」というテーマでも「接触の見極め」に焦点を絞ってプレゼンを行った。「接触の見極め」には「ボールへの接

触」と「相手競技者への接触」の2種類があり、それぞれ「いつ・どこで(地点)・どこが(部位)・どのような状況で」起こったのかを確認できなければ見極めはできないと考える。そのためにも、ポジショニングなどの要素が試合中には必要となる。

須摩→主審が見極めることには、反則、タッチジャッジなどがあり、副審については、オフサイドについても見極める必要がある。特に重要となる見極めは「PA内外」であり、得点に係る判定となるので、間違いのないようにする。そのためにも、ポジショニング・角度を的確にしてあげると、しっかりと見極めることができると思う。

板矢→「見極め」というテーマでも「懲戒罰の見極め」に焦点を絞ってプレゼンを行った。自分が主審であった試合の映像を利用し、事象に対する判定を軽く交じあわせ、第1回のアカデミーで学んだプレーの程度の判断に必要な5つの要素「プレーの方向・タイミング・強さ・スピード・接触部位」の観点から一つずつ紐解き、適正な懲戒罰の判定の方法について共有した。



13:15 フィットネス講義 岡田 FITINS

6月にレフェリーがそれぞれ記録したフィットネスに関する日誌を参考に、フィットネスインストラクターから「トレーニングの仕方」の講義を受けた。負荷の強度毎に色分けしたカレンダーを見ながら、トレーニングの負荷のかけ方に対するコメントと、今後のアドバイスを個人個人がしてもらった。アドバイスについては、「試合翌日のアクティブリカバリーが足りない」・「一つの環境でトレーニングを行うのではなく、いつもとは違う環境でトレーニングを行ってみる」・「トレーニングの時間を確保」・「完全休養の取り方を検討」など、具体的なアドバイスであった。また、トレーニングの際の負荷のかかり方の指標として、心拍数があり、最大心拍数を基に、負荷の度合いが数値として把握できることを学び、その点も含め、今後のトレーニングの仕方について深く考えた講義であった。

14:45 試合分析



(北星学園大学サッカー部- 北海道文教大学サッカー部)

R 自己分析→アドバンテージを意識して試合に臨み、適切に適用できたところもあれば適用することができていなかったところがあった。争点に対しての距離や角度が悪かった際には事象がはっきりと見きれて居なかったので走り方の工夫が必要だと思った。警告を出した際に、その後のフリーキックのポイントがブッキングをし、プレーを再開させた後にポイントがずれていることに気づいた。2つの事象を同時に見ることができず角度とポジショニングが悪かった。

INS 分析→試合全体の情報をもっと得るために首を振りその中でチームの特徴を把握していきどんなことが起きるかを感じ取らなければならないが感じ取れて居ないため判定が遅れている。ファウルに対し危ないということを伝えるために笛の強弱で伝

えることで周りもわかると思います。プレーが止まった際に同時に2つの事象を見るためのポジショニングを瞬時に判断をする。自分の考えをしっかりと持たなければ選手に対して良いコミュニケーションが取れない。

15:30 アンガーマネジメント 青山プロダクション 青山 夕香 氏

怒りを管理（コントロール）することによって、良好な対人関係を築くことができ、データとしても、怒りを上手にコントロールできる人は、年収が約2倍になり、平均寿命が約7年延びるということもあるという。17のアンガーマネジメントの方法を学ぶなかで、まずは自分の本当の精神状況を把握するということが大事だと感じた。その方法として、自分の怒りに点数をつけ、自分がどれだけ憤っているのか、または憤っていないのかを把握することや、紙に文字として怒りの原因を書き出すだけでも一度客観的に怒りの原因を見ることができると指導があった。また、青山氏の「プロの定義」や「理想からの逆算した行動」など、アンガーマネジメントに限らない多様な「成功への方法」をご教示いただき、前回の講義同様に価値観を大きく変える講義であった。



17:00 ふりかえり・諸連絡

17:20 解散